

○議長（小林哲雄）

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は１１名です。定足数に達しておりますので、これより平成２６年第１回開成町議会定例会６月会議（第２日目）の会議を開きます。

午前 ９時００分 開議

○議長（小林哲雄）

本日は日曜議会を開催しております。早速、本日の日程に入ります。

日程第１、一般質問を行います。質問の順序は、先に抽せんを行いました順序で行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、一般質問を行います。持ち時間は、一人３０分の時間通告制で行います。なお、持ち時間より早く終了しても、お手元に配付してあります、時間割り表のとおり行います。質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

それでは始めます。８番、山田貴弘議員、どうぞ。

○８番（山田貴弘）

皆様、おはようございます。今日は日曜議会ということで、１番バッターということで頑張っていきたいと思います。８番議員、山田貴弘です。

先に通告いたしました、２項目の質問の日曜議会用といたしまして、人口動態を検証・施策の充実を図る、について質問を行っていききたいと思います。

日本の将来人口予測では、地方から大都市への人口流出が問題化されています。神奈川県西地域では、六つの町が「消滅可能性都市」に挙げられました。

開成町は、都市化の計画的な規制・誘導、市街地整備、公共公益施設の整備・充実により、人口増加をなし遂げていることは評価に値するものであります。

しかし、足柄地域全体の発展を考えたとき、近隣自治体の人口動態及び財政状況によった自治体の消滅にならないよう、足柄地域を一体とした都市づくりの推進、広域連携のさらなる強化、合併といった内容を視野に入れたまちづくりの検討が必要ではないかと考えているところであります。

そのような状況の中で、今後の開成町の問題を深めるため、四つの点について伺いいたします。

①都市づくりの基本戦略である三つの空間構造は、魅力ある地域づくりの基本であると考え、中部地域の「くらし」ゾーンに重点を置く施策が必要であると考えているところであります。

②牛島・下延沢・下島・上延沢・金井島地域におけるひとり暮らしが増加傾向にあると分析するが、施策の検討はされているのでしょうか。

③２５歳から３９歳の人口総数が減少している。男性の人口流出に歯どめをかけ、あわせて、子どもを産む中心の年代である若年女性が安心して住めるまちづくりの整備・充実を。

④人口統計分析による、未来を見据えたきめ細かな施策の充実が必要であると考えているところであります。

以上について、登壇からの質問であります。よろしくお願いします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

山田議員のご質問にお答えしたいと思います。その前に、山田議員には、開成町の元気を実践をされているということで、今日は家族6人で見られている。いい議論のやりとりをしたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず、議員のご質問の消滅可能都市についてであります。5月8日に、有識者による政策発信組織である、日本創成会議が、「ストップ少子化、地方元気戦略」と題する提言を発表いたしました。この中で2040年の20代から30代の女性の数を試算をし、2010年と比較した結果、若年女性が半分以上に減る自治体である消滅可能都市、これが全国の49.8%にわたる896市区町村に上がることが明らかになり、全国の自治体に多くのショックを与えました。

足柄上郡各町においても、若年女性人口変化率が、軒並み50%を超える減少幅となっておりますが、開成町はマイナス13.4%にとどまり、議員ご指摘のとおり、これまでの計画的なまちづくりが功を奏したものと理解をしております。

しかしながら、今後の状況は決して楽観的とは言えません。開成町の現在の状況は、とりあえず安心できますが、近隣市町の状況は厳しく、足柄上郡1市5町、平均はマイナス47.8%です。開成町にもその影響が及ぼさないとはいえません。そのためにも、地域が一体となった取り組みが必要であり、広域連携等をさらに進め、開成町における人口減少が具現化する前に、人口流出を抑え、女性が安心して子どもを産み育てることができる環境整備が必要と考えております。その上で、順次ご質問にお答えをいたします。

まず、中部地域の施策についてであります。第5次総合計画、基本構想第3節、土地利用構想では、中部地域は住宅を中心に、各種の公共施設や、民間施設などが集まる地域としております。幹線道路の整備を促進し、生活道路や水路の整備など、既存市街地の住環境整備に努め、良好な土地環境が確保された、暮らしの快適生活空間を目指した土地利用を図る地域であります。

具体の政策としては、行政施設の集約のため、役場庁舎の建て替えを今、検討しております。仮に現在の位置で建て替えるのであれば、町民の皆様にとって、親しみやすい庁舎にしたいと考えております。また、他の場所に建設するのであれば、役場跡地を活用して、例えば、多くの町民の皆さんが憩える施設などを整備したいと考えております。

また、平成24年度に策定した住環境整備マスタープランに基づく町道改良事業や、水路維持管理事業、平成25年度に実施した路面性状調査の結果を反映した主要町道の舗装の打ち替え事業等があります。これらの事業を計画的に実施することにより、より質の高い住環境を整備していきたいと考えております。

次に、ひとり暮らしが増加する地域の施策についてであります。同じ町内にお住ま

いにおいても、地域ごとに高齢化率や、高齢者人口、ひとり暮らし高齢者の世帯数等に違いがあることは把握はしております。総合計画においては、北部、中部、南部の大きな地区ごとに、地域ごとに施策の位置付けをしており、地域の状況にあわせた福祉施策の展開までは言及をしておりません。事業執行に当たっては、地域ごとの人口動態を細かく分析することは不可欠であり、議員の言われるように、高齢化率だけではなく、ひとり暮らし高齢者の世帯数の増減に着目した施策の展開は必要であると考えております。

町による全体的な福祉政策の推進とともに、地域において、子育て支援から高齢者福祉まで、幅広い事業展開をしている開成町社会福祉協議会との役割分担をしながら、自治会や、民生委員、児童委員の地域活動を生かし、地域福祉の事業展開を進めていきたいと考えております。

次に、25歳から39歳の人口総数の減少についてであります。開成町においても、議員ご指摘のとおり、25歳から39歳の人口総数が減少しております。

例えば、平成23年1月1日と平成25年1月1日を比較しますと、23年が3,354人、25年が3,139人で215人の減であります。この原因を分析すると、38歳から39歳は団塊ジュニアの世代であり、もともと人数が多く、逆に25歳から26歳は、もともと出生数が少ないことから、差が出ていることが大きな要因と言えます。また、18歳から43歳までの人口増減を分析しますと、22歳以下の若年層は男女ともに減少しておりますが、28歳から39歳にかけては増加をしております。大学や就職で町を出ていく一方で、結婚し、子育てをする世代になって、開成町を選ぶという傾向があるのではないかと考えております。

そのような中、町としても取り組む施策としては、やはり選択される魅力あるまちづくりをすべきと考えております。特に恵まれた地域資源を活用して、外部から交流人口を増やす取り組みを進め、また、地勢的な有利性、高い交通便利性などを生かし、良好な住宅地の形成と都市機能の集積による南部の定住人口の増加を目指していきたいと思っております。

また、特に若年女性が安心して住める環境として、子育てしやすい環境づくりも重要な視点であります。第五次総合計画でも、大きな柱の一つとなっております。まちぐるみで地域活力を生かした子育て支援を積極的に推進をします。これらの施策を積極的に進めることにより、開成町が県西部の核として、今後とも幅広い世代に選ばれ、生きがいを持って健康に暮らし、子育てをし、町で育った子どもたちが、また、大人になっても住み続けたいと思えることができるまちづくりを目指していきたいと思っております。

最後に、人口統計分析によるきめ細かな施策の充実であります。町では、現在、第五次総合計画をもとに、着実に施策を実施しております。しかしながら、社会経済状況の変化は激しく、人口一つをとっても、想定どおりに進んでいくとは限りません。そのため、計画をベースとしながらも、状況変化に対応したきめ細かな施策を行っていかねばならないことは、議員のお考えと同じであります。そのため、基本的に

ローリング形式で計画の見直しを行うとしておりますが、毎年行う事務事業評価においても、人口動態等の外部環境を適切に判断をしながら、各施設が時機を得たものであるかどうか、また、内容も状況に応じたものかどうか、しっかりとチェックを行い、事業を進めていきたいと思っております。

以上ですので、よろしくお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

山田議員。

○８番（山田貴弘）

それでは、再質問をしていきたいと思えます。ある程度の見解の中で、町長答弁がありました。その中で開成町の基本戦略である、三つの空間構想、これというのは大変重要であり、開成町は、昔、全地域に都市計画区域全域を指定しました。その中で計画的な土地利用をするために、三つの構想の中で北部地域、ふるさとゾーン、中部地域、暮らしゾーン、南部地域、ときめきゾーンとして、三つの区分に分けております。この構想については、先人というか、昔の方が、こういうふうな構想でまちづくりをするというのは、大変画期的であり、開成町の発展を遂げているというのは、ここに鍵があるのではないのかなというところを考えているところであり、これを根本的に崩してまちづくりを進めていっては、今までの積み重ねた成果というものが台なしになりますので、この基本戦略というのは、基本的に町長のお考えの中では、今、現役でいる中で崩すものではない。また、将来に向かって崩すものではないのか、その点、確認をいたしたいと思えます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

山田議員の言われるとおりでと思います。第五次総合計画、昨年作成し、１年間スタートしてたちましたけれども、その中でも先代の皆さんたちが進めてきた、北部、中部、南部の土地利用については投資をさせていただいております。そういった中で、今回は中部地区についてご質問がありましたので、この大きなところでは、今、庁舎建設が中部地区の中においては、大きな問題となってきますので、その点を今回の質問の中の答えとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

山田議員。

○８番（山田貴弘）

大変基本構想の中を三つに分けるということは大変重要であるという認識のもとの中でまちづくりを進めているということで、共通理解が得ているというところで進めていきたいと思えます。

それでは、一番初めに開発を進めるときに、北部地域というのは、区画、農場整備ですね。整備をして、いろいろな憩いの場をつくりながら、４７億という予算を投入しながら整備をしてきました。これは当然、農業振興を深めるために不可欠である。

都心化を優先するのではなくて、開成町というのは、農業あつての開成町なんだという位置付けの中で一番初めに手をつけたというのが現状ではないという。その次に、どこに手を入れるのかというのは、手つかずだった南部地域、当然これは今、現地に來てもらうと、大変立派な道路ができ、河川ができ、未来を予測、わくわくするようなまちづくりが進められるということで大変評価するという、これは全て税金が投入されているのは現実であります。

そのような中で中部地域、開成町の住民が昔は中心にたくさんいて、潤っていたという部分ではないのかというふうに認識しているところではありますが、この中部地域の政策そのものが、正直言って見えない。今回、町長答弁の中で、水道維持管理事業とか、路面状況調査の結果を踏まえて、主要道路の整備をするという、これは私からすると、当たり前のことであって、北部、南部の整備を進めるがために、中部の方々が我慢をしてきたというのが現実であるというものを認識した中で政策を打ってもらいたいので、そうすると、ここだけでは正直言って、町長の中部地域に対する本気度というのが見えてこないんですよ。南部に対しては、絵を描きました。北部に対しては絵を描きました。でも、住む人間が、ふたをあけてみたらいいじゃないかという、南にしかいいじゃないかということでは、バランスが崩れてしまいますので、ぜひとも中部地域に対するグランドデザインというものを示してもらいたい。

それには皮切りに、先ほど言われた庁舎建設もあるということを述べた中で、単なるここに建つのか、ほかに建つのか、これから議論はあろうかと思いますが、少なくともおへその部分というのは、吉田島のテニスコートの下あたりなんで、そんな大きな移動はしないという部分では、中部に建つということは予測はされるんですが、やはり町民が南から、北から中部のほうに憩いを求めて来るような空間というのは必要であると考えた場合に、単なる庁舎建設、箱物をつくって、事務的手続をする。そういう施設にあつてはならないと考えると、昨日の高齢化社会に対応するまちづくりの質問をした中で、町営住宅の跡地の問題についても、あそこに町営住宅を再び建てるということは、住宅政策は終わっているんで、住宅困窮者に対する施策はもう終わっていると解釈しているんで、要は建てる意味はないんじゃないかなという部分では、自分も答弁はさせてもらったんですが、そこら辺も範囲を広げた中で、やはり目の前に駐車場がぼんとあるのではなくて、極端に言うと、目の前に憩いの場があつて、町民が潤っているようなグランドデザインというものを考えなきゃいけない。そのような中で、当然、その範囲だけではなくて、町道201になるんですか。旧道路線というのは昔栄えたところで、歩行者天国にもなったときもあるような潤いのある道路だったところを、もう少し見直した中で絵を描いて、庁舎を中心にした中で、まちづくりのグランドデザイン、中部に対して、そこら辺を描けないかなと、今回熱い思いがあるわけでありまして、当然、これは財源が限られた中での施策展開になろうかと思えます。

しかし、今日決めたからといって、明日、明後日にできるものではありません。これは10年先、20年先を見た中で、ここら辺は町長としても示していくべきではな

いかなと考えているところではありますが、その点について、お考えのほう、よろしく
お願いします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

まず、確認を先にさせていただきたいんですけれども、庁舎建設の場所というのは、中部ありきのようなことを山田議員は言われましたけれど、これはまだ決まっていなくて、南部にも開成町の町有地があります。北部の松ノ木河原になりますけれども、3カ所にありますので、その場所の選定はこれからだということで、その場所によって、この庁舎の跡地、先ほど答弁しましたけれど、どのような形になるかはわかりませんが、基本的には、この場所は中部の中の中核の位置を成しておりますので、やはり憩いの場所としても整えられるような整備はしていかなければいけないなど、庁舎を建てようと、建てまいと。そういう形で思います。

町営住宅の話が、一昨日でしたか、質問の中でありましたけれども、それはちょうど中部の中にありまして、これはもう廃止をするということは決定をしておりますので、この跡地についても、あわせてそこの中部の中の憩いの場として、町民の皆さんの集える場所として活用は考えていきたいと思っておりますので、この辺はトータルの中で、山田議員のご指摘の中であわせてこのような構想をこれから考えていきたいと思っています。

○議長（小林哲雄）

山田議員。

○8番（山田貴弘）

庁舎建設がここにくるという、ありきではなくて、やはり中部の部分にもう少し目を向ける必要があるという部分が大枠であります。その中でいろいろな施策が考えられると思います。

例えば、防犯面で言わせてもらいますと、南部地区の人口増加によることから、犯罪が発生しない環境づくりが必要であるというふうに自分は認識しております。

開成町の地形というのは、東西に1.7キロ、南北に3.8キロ、要するに縦長ということですね、南北に。東西は2分の1の1.7キロという、そのような中に、防犯面でいいますと交番、延沢の交番と吉田島の交番があると思います。それを横の短い部分に二つの交番が、駐在所、失礼しました。駐在所がある中で、密集度を今後考えたときに、南北の部分、駅前の方にできれば派出所が誘致できればいいんですが、そこら辺の議論が陳情を出すだけであって、町の中で議論は、そこそこはされているのかもしれないけれども、表に出た中での議論がされていないという部分では、中部地域をどうしていくかという、本来、今、ここに二つもあっていいのかと、吉田島なら吉田島地区だけの問題なのかというものを再度掘り起こした中で、デザインというものを書いていかないと、まちづくりばかり率先して、道ができました、何ができました、でも、治安は悪いですでは、これはまちづくりに当然ならないので、ぜひとも

そこら辺は考えてもらいたいと思います。

それとあと、教育面でいえば、南には南小学校ができました。開成町には既存の開成小学校が出ました。この部分、生徒数が減っているというのはご存じだとは、減っているというか、開成小学校と南とでは、人数が減っているという状況が、今現在起きている中で、同じ同数にしろとは言いませんが、先を見た中で、片方が減って、片方が多くなるというような、見ているだけではなくて、調整弁をうまく機能した中で、まちづくりというものを考えていってもらいたい。その中には、住宅環境を整えるという部分では、道路の拡幅ないし、整備が必要であるということで、先ほどの旧道ですね。町道の201号線の整備というものが考えられるのではないのかなと思っています。るところであります。

そのような中で、交通面の話をいたしますと、今月の全協で話がありました。バス路線退出意向の申し出が出ているということで、説明が町からありました。退出理由としては、旧道は狭い区間であり、対向車が来た場合には、交互通行しなければならず、歩行者等への安全確保のため、新道経由に変更したいという申し出が出たということで、民間のバス会社が安全に対して危惧をしている。それだけの理由ではないと思います。当然、乗車数の激減の問題もあろうかと思えます。そのような中で、バス路線が新道に移るといような意向が示された中で、旧道というのは無視していけない。生活の路線である以上は整備をしてもらいたいという、これは今、3点、防犯、教育、安全面の部分で、中部のこういうふうにやってもらいたいという部分を述べましたが、なかなか難しいと思います。おいそれと、町長だけの判断でやりますとも言えないと思います。いろいろな議論が必要だと思います。そういう部分は、南部と北部だけではなくて、中部の部分にもう少し目を向けてもらって、グランドデザインを出してもらって、そのような中で、さらなる人口増加をやっていってもらいたいという、単なる人口動態を検証するだけではなくて、どういうところに魅力のあるまちづくりに必要な施策があるのかというのを模索しながら、いろいろな蛇口を持つというのですか。いろいろな切り口の中で刺激を与えて、住んでみたいという町を描いてもらいたいという、そういう思いがあるもので、今、何点か申し上げた中で質問をしているところですが、そこら辺の面について、これは生活に直結することなので、答弁、よろしくお願いします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

山田議員は中部に対して熱い思いを語っていただきましたけれども、私としては、北部、南部、中部のバランスのとれた進め方をしていかなきゃいけないなと思って、南部がある程度目途がついたので、今年度は北部にも力を入れていきたいというお話をさせて、北部には特に交流人口を増やしていきたいと。そういった中で中部が抜けているんじゃないかというご指摘もあるかもしれません。そういった中で三ついただきましたけれども、交番と駐在のあり方というのは、私は違うと思いますね。今、駐

在が2カ所、吉田島地区と酒田地区にありますけれども、これを交番にと、駅前交番は、これはずっとこれからも、きちんと県に対して要望していきたいと思っています。できれば駐在はきちんと残して、これは地域の人たちのよりどころにもなります。交番というのは、もっと広い範囲において、安全対策、防犯対策に力を入れていく部分だと思いますので、位置づけが違うということで、どちらかを減らして、交番を増やすという形ではなくて、駐在は二つ残しながら、交番を駅前に誘致をするとこの基本姿勢でこれはいきたいと思っている。

子どもたちの人数の関係、開成小学校と南小学校の、この人数がだんだん南小学校が増えて、開成小学校が減っているというバランスが、格差がだんだん出てきておりますけれども、これは南部と北部の小学校の、ある意味、それを生かした違いの教育を進めていくというのがすごく大事なのではないかなと思っています。二つあって、まるっきり同じ教育がいいのか。それぞれにあった、地域にあった、特色のある小学校にも、ある意味、少し変化をしていってもいいのではないかなというふうに考えております。

道路の関係、特に旧道201号線、これは特に中部の人たちによくご意見でいただくのは、身近な生活道路の路面のひどさ、ひび割れ等を含めて、この辺の改修をきちんとやってほしいというご意見は確かにたくさんありますので、それが昨年、路面調査がきちんと数字的にあらわれる形でさせていただきましたので、その中で中部の大きなところ、201号線もできるだけ早い中で整備をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

山田議員。

○8番（山田貴弘）

細かな部分で答弁はもらいましたが、中部の地域というのは大変重要でありますので、その部分というのは、ぜひともやっていってほしいという。

今回は人口動態という部分でいうと、開成町はよそから見ると、人口が増えているじゃないか、元気があるじゃないかというふうな見方があるとは思われますが、現状分析の中では、65歳以上、高齢化率が上がったことによる、ここ2年で見ると、若干、ゼロ歳から14歳の部分が増えているという部分があるんですが、大半は65歳以上が増えているというのが現実であります。

先ほどの「高齢化社会に対するまちづくりを」の質問をしましたがけれども、ひとり暮らしの高齢者の施策というものも大変必要です。若い人たちというのは、今がよければいいという人ばかりじゃないので、やはり将来を見据えた中で、本当に自分が一人になったときに、体が不自由になったときに、開成町というのは面倒を見てくれるんだという、その中に開成町をよくしていきたい、開成町をもっと明るく元気な町にしたいという意欲ができて、町民参加が盛んになってくると思います。そういう部分では、安心した部分というのは、大変必要でありますので、そこら辺、ひとり暮らしになっても、開成町は面倒を見るんだよという、子どもに対する施策も当然必要です

が、反面、そういう部分も注視しながら、町長のほうから言ってもら、町民に対してメッセージを流す、そういう部分では、ひとり暮らしに対する高齢者の世代の増加がありますので、ぜひともそこら辺、施策を考えていってほしい、そして打ち出してもらいたいというところをお願いしたいと思いますが、それに対して答弁ありましたら、残り２２秒です、よろしくお願いします。

○議長（小林哲雄）

町長、簡潔にお願いします。

○町長（府川裕一）

確かにひとり暮らし、プラス老々の人たちの世帯が増えている、これはきめ細かく、各地区ごとに対応していかなければいけないと思っています。

町全体のこととしては、隣同士の顔の見える環境をつくっていききたいという話はさせていただいています。それがそれにつながるとしています、私は。やはり地域の人たちが、その人たちがひとり暮らしも含めて、家にこもることなく、地域に出ていってもらって、顔の見える活動をしてもらうことが、健康寿命につながるとしていますので、そういう意味で、開成町全体の顔の見える関係、自治会加入率も含めて、そういう話をさせていただいておりますけれども、そこに力を入れることによって、そういう人たちを救っていけるのではないかとと思っています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

山田議員。

○８番（山田貴弘）

ありがとうございました。